東京農業大学
湘南稲桜会だより
発　行　東京農業大学　校友会神奈川県支部　湘南稲桜会　発行責任者　松居靖雄
事務局　〒238-0032　横須賀市平作 4-1-9　清水圭一方　　TEL　046-854-0044

＜平成 30 年度研修会報告＞

下嶋武志（Ｓ45　造園学科）

平成 30 年 10 月 27 日(土)　会員や家族 19 名が参加して、日比谷花壇大船フラワーセンターと大船観音を見学・参拝した。午前中の雨は午後からはすっかり上がり、秋晴れの中で研修会を実施することができた。

JR 大船駅南口に集合し徒歩二十数分でセンターへ到着。当センターは平成 14 年にも研修に来たが、当時は県の直接管理であったが、平成 30 年 4 月から(株)日比谷アメニス、相鉄企業(株)、(公財)鎌倉市公園緑地協会等 4 社で神奈川県の指定管理を契約し、名称も「日比谷花壇大船フラワーセンター」の愛称で平成 30 年の 4 月 1 日にリニューアルオープンされた。

研修会当日の施設の説明は、日比谷アメニスの植栽管理マネージャーの木原吉郎氏。木原氏は昭和 54 年造園学科卒とのことで、農大生が各地で活躍していることを実感した。

（木原吉郎氏の案内で見学）

センターは面積 5ha で、5 千種の植物を管理している。当地は、以前県農事試験場であった。明治期国策として花卉輸出を図る上で宮澤文吾氏（故人）が品種改良、15 年間にシャクヤク 600 種、

ハナショウブ 160 種ぐらい創った。現存するものは各々160 種、60 種ぐらいとのこと。種から開花まで 5 年かかることを考慮すれば、驚くほどの短期間のうちに成果を上げ、残した貴重な種である。

この地はもと田の跡地で、丘は造成したもの、施設のトイレはバリアフリー化してあり、展示物は県営以来のものを引き継いでいる。以前あった

池は残念ながら埋め立てられ、温室(グリーンハウス)のボイラーは撤去されていた。今日の室温は 28～30℃と外気より高めであるが、室内の植物が冬季にどうなるか少し心配だ。園内は 10 月の台風 25 号による塩害や強風により花壇は復旧中、樹木の枝が折れるなど被害をもたらしていた。

次に、大船観音へ徒歩で向かった、車窓からは見慣れている大船観音も、研修会参加者の大半は初めての参拝だった。ふっくらとした顔立ちと、優しい微笑みに間近で接し疲れがとれた気がしてきた。

見学・参拝後に大船駅近くの居酒屋で喉をうるおし、散会した。

夜来の雨　微風とともに　清々し
塩害を　隈なく残す　野分け哉

＜東京農大の学祖　榎本武揚公と横須賀＞

清水圭一（Ｓ46　造園学科）

（東京農業大学　生みの親　榎本武揚公）

昨年 12 月 27 日付け神奈川新聞の企画特集記事にあった顔写真を見てどこかで見たことがあるなと思い記事を読むと、今日の東京農業大学の生みの親である榎本武揚公の肖像画であった。私事になるが、学生時代はあまり学校へも行かず、アルバイトの日々が多く、友人の代筆と代返のおかげでなんとか卒業でき、学校に対して現在ほど母校愛を感じていなかったため、新聞の肖像画を見てもどこかで見た顔程度しか思い出せなかったのである。以下は新聞記事を使用しての投稿になるが、榎本武揚の事について知識の無い私が記事の斜め読みで綴った文であるので事実と異なるときはご容赦願いたい。

榎本武揚は江戸幕府と明治政府をどちらも支えた数少ない偉人あった。北海道の開拓を通して国力増強と旧幕臣たちの再起を実現し、旧幕臣の師弟教育のため、「理論と実践が共に作用してこそ完全な教育」という理念で私立育英黌（現東京農業大学）を設立し後進の育成に尽力、日本農業の礎を築いた。また、浦賀ドックの創設へも情熱を注いだ。(横須賀市浦賀。住友重機械工業浦賀造船所として長年多くの艦船を建造・修理をしたが 2003 年 3 月 31 日閉鎖)

資料によると、榎本は 1836 年 10 月(天保 7 年 8 月)幕臣榎本武規の次男とし生まれ、15 歳で幕府学問所の昌平黌に入り朱子学とオランダ語を学んだ。箱館奉行所の堀利熙の個人的な小姓として蝦夷地へ随行し、その後長崎に開かれた海軍伝習所に 2 期生として入り、ここで中島三郎助や勝海舟と出会うことになる。

1869 年(明治 2 年)榎本武揚は、箱館・五稜郭を守る総裁であったが、6 月 25 日千代ヶ崎台場は総攻撃を受け、伝習所での先輩の中島三郎助親子をはじめ浦賀隊のメンバー数人が戦死した。27 日には五稜郭も落ち榎本らも降伏した。初めは自分の

死を持って他の仲間の助命を乞う姿勢であった榎本であったが共に戦った仲間からも強く非難され「死」をもって償うことをやめた。また五稜郭を占領した新政府軍参謀・黒田清隆に「新政府はこれから外交の樹立と国境の画定などが必要になろうが、そのときにこの法律知識が役立つ」と、「万国海律全書」を差し出した。これを受け取った黒田は榎本の非凡さを知り、除名のために奔走し、西郷隆盛の「榎本は活かして仕え」の一言で決着した。

時がたち、榎本が浦賀と関わるのは、西浦賀の愛宕山の山頂近くに、箱館で没した浦賀奉行所与力・中島三郎助の招魂碑の除幕式であった。除幕式には碑の篆額に揮毫をした榎本をはじめ幕府海軍の創設期に苦楽を共にした友人らが多数参加し、盛大に行われた。その席で「中島さんが先鞭をつけた近代造船をこの浦賀の地でやろう」という提案があった。この提案にすぐさま賛同したのが榎本武揚である。このときの榎本は、内閣制度開始で就任した通信大臣から文部大臣を経て、枢密院顧問官、さらに外務大臣へと閣僚を歴任し超多忙な時期であった。榎本には箱館での戦いで、中島親子を無くしてしまったという深い思いがあった。それが中島のゆかりの地である浦賀で造船を興したいという、何が何でも成功させなくては、という気持ちであった。

企画特集記を読んだ後、東京農業大学の生みの親榎本武揚公と横須賀の浦賀が深く結び合っていたことを知り、湘南稲桜会の会員として誇らしく思った。

（浦賀ドック）

＜「農」と「福」農福連携＞

小清水征雄（Ｓ39　畜産学科）

農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取り組みであり農林水産省、厚生労働省では農福連携施策として推進している。連携は障害者の就労確保と農業の担い手拡大の両立を目指す双方の課題解決と利益がある Win-Win の取り組みであり、次の４つに分類される。

1 障害者を雇用する特例子会社が農業部門に乗り出す。
2 福祉施設（就労継続支援事業所）が自ら農業に進出し農産物や加工品を生産・販売する。
3 農業法人・農家が独自に障害者を雇用する。
4 労力が欲しい農家と仕事を探している障害者と福祉施設の間にコーディネーターが介在し就労拡大と担い手の確保をする関係。

ここでは、全国的に広まっているパターン４の事例を紹介します。長野県のＪＡ松本ハイランドでは農業者と福祉施設の仲介役を 18 年度から本格的に開始した。障害者はネギの畝間の草取りなどを担い、農家からは「単純作業を任せることで、技術を要する仕事に専念できた」また、「スポットで働いてもらえて作業の遅れを取り戻せた」といった評価の声も上がっている。賃金も作業内容に応じた歩合制とし、体調などによって作業の進め方が異なっても時給制と違い農家にとっても負担が大きくならないし、働く側も自分のペースで仕事ができる。このようにお互いの課題を補完し合って双方が恩恵を得る関係作りを進めている。

愛知県のＪＡあいち中央では人手を求める農家に求職者を紹介する無料職業紹介事業で成果を上げている。求人登録をした農家と福祉施設とのマッチングをし、成約率をあげている。成約率を支えているのは求職者に対しＪＡ職員による事前面談で要望を聞き、適性などを判断し、その後に農家

を含めた３者面談でマッチングする。週３日ほどキュウリの収穫などをしている就業者は「作業にも慣れてきていい農家を紹介してもらった。ＪＡが事前に農家と面談しているので安心できる」と話している。ＪＡは事前面談に加え、その後のフォローにも気を配り、求人を出す農家に労災保険の加入を義務づけたり、労務管理に関する研修会を開催している。

また、岡山県の農業法人㈲吉備高原ファームでは、障害者の働く場所づくりと農業の人手不足を解消しようと就労継続支援Ａ型事業所立ち上げ、「農福連携」を実践している。事業所利用者の適性を見極め分業制を取り入れ、品質の高い農産物の生産につなげている。また、仕事をする大切さや社会への適応能力の習得を促している。ホーレン草の収穫は同社の社員が行い、職業指導員の指導を受けながら利用者が洗浄など出荷・調整作業を担当している。また、ベタ掛け資材の回収やかん水なども任せ年間を通じて農業を学ぶ事にもつながっている。

以上のように全国各地で農福連携が進んでいる。

最後に横須賀市長井で農福連携を進めている「ブロ雅農園」代表鈴木雅智さんの事例も紹介します。鈴木雅智さんは湘南稲桜会の会員であり、当会役員を経験された方です。福祉事業所「アイルビー」（横浜市金沢区）を利用する知的・精神障害者を受入れ、草取り、ナス・ピーマンの収穫などをした。多くの畑を所有し耕作しているが、労働力は高齢の父母と自身夫婦の４人。広い畑で野菜を作るのは無理があるが、彼らが手伝ってくれて本当に助かっているし初心者でもできる仕事はある。仕事を選別した上で指導をすれば障害者でもできると話している。

また、横須賀市は特例子会社「パーソナルサンクス」（東京都中野区）と昨年６月に連携協定を締結し長沢の事務所を拠点に社員として採用した障害者を農家に派遣することで準備を進めている。

このように様々な形で全国に広まりつつあり、地域農業の活性化にもつながるものと期待されている。

＜調理実習体験記＞

清水圭一（Ｓ46　造園学科）

平成 31 年 1 月 20 日（日）横須賀市生涯学習センターで、インスタントラーメンを使った「健康と栄養」の調理実習に参加しました。定員 20 名で男性は 3 名でした。主催は、神奈川県栄養士会、日本栄養士会で、インスタントラーメンを使用した高齢者向けの低栄養防止および働く女性向け簡単レシピにより、4 種類の調理を体験しました。調理台の上にはすでにインスタントラーメン、使用する野菜、海藻、キノコ類などが用意されていました。インスタントラーメンは日ごろ見慣れていたつもりですがその数が多く、初めて見るものも多くありました。調理の説明があり早速実習です。調理台は 4 台あり 1 台に 5 人が付き分担して調理します。配布されたレシピを見てどれから取りかかろうかと考えている内に周りの皆さんは手際よく動き出し、自分は何をやればよいのか頭が真っ白に！　それもそのはず、男性 3 名（高齢者）以外は、全員が管理栄養士さんとのことで手慣れていて無駄な動きがなく調理を進めています。インスタントラーメンを使用した料理ということで気楽に参加したのですが後の祭り！　幸い、湘南稲桜会の江間監事（S39 学栄）、関副会長（S50 学栄）が同じ調理台でしたので、手取り足取りの指導を受けなんとか役割を果たすことができました。「熱湯を注いで 3 分」、「鍋に入れて 3 分煮たらどんぶり」へのインスタントラーメンが少し手を加えるとこのように変わるのかと改めて体感しました。実習終了後、後援の日本即席食品工業協会からバラエティーにとんだインスタントラーメンをたくさんいただきました。今回の調理実習には地元のケーブルテレビ、新聞社なども取材に来ていましたが、翌日の新聞に、江間さん、関さん、私の写った写真と記事が掲載され、びっくりしました。

後日お土産のインスタントラーメンを食べましたがどれも美味しくいただけました。あまり手をかけず、3 分間で調理しました。

カルボナーラ風ラーメン

三浦産大根のポトフラーメン

塩ナムルラーメン

横須賀カレーラーメン

朝日新聞　2019. 1. 21　湘南版

即席ラーメンに一手間

栄養満点のレシピ

横須賀　地元の食材も使用　4種類に挑戦

インスタントラーメンに一手間を加えて、栄養バランスを高めよう―。横須賀市西逸見町1丁目の市生涯学習センターで20日、即席麺を使った調理実習があった。

県栄養士会と日本栄養士会が主催。参加者約20人が、栄養士考案の4種類のレシピに挑戦した。

テーマは「高齢者や働く女性らが短時間で作れる、栄養価の高い地産地消レシピ」。調理時間は10～15分で、シラスやワカメ、三浦産大根や横須賀産のキャベツを使った。

「横須賀カレーラーメン」は包丁要らず。コンビニで買えるミックス野菜を炒め、サラダチキンを混ぜ合わせる。湯を加え沸騰したら即席麺を入れて、添付のしょうゆスープとカレー粉を加えて煮込む。わかめを盛り付けて完成だ。

「カルボナーラ風ラーメン」は即席麺、ベーコン、しめじ、まいたけをゆでて添付のとんこつスープを加え、湯切りする。粉チーズをふりかけ、温泉卵を加えて出来上がり。

横須賀市の新谷健さん(63)は「いつも食べる即席ラーメンがこんなにバラエティーに富むなんて驚いた。自宅でも出来そうです」と話した。(神宮司実玲)

上「カルボナーラ風」(中央)などをインスタントラーメンを使って作った

下調理をする参加者らいずれも横須賀市西逸見町1丁目

掲載記事　1 月 21 日付朝日新聞

＜会員からのたより＞

研修会の出欠席回答はがきに寄せられた会員のたよりをお伝えします。　敬称略（事務局）

（横須賀地区）

・石橋　順作（S34 学林）
　毎日散歩しています。

・菱沼　良平（S48 学経）
　先約の行事と重なり残念ですが欠席いたします。

・池田　厚（S48 学造）
　欠席します。参加の皆様によろしくお伝え下さい。

・林　輝幸（Ｓ49 学造）
　当日は全社的催事のため参加できず申し訳ありません。

・湖水　康史（Ｓ62 学農）
　今年の大風は潮風が大変でした。でも思ったより被害は少なかったです。

・深澤　貴光（S63 学工）
　参加いたします。急用が入った場合には、欠席させてもらう場合もありますが、よろしくお願いします。

（鎌倉地区）

・梅澤　稔（S33 学農）
この研修会を企画していただきありがたく御礼申し上げます。私も地元ですので参加させていただきます。

・嶋村　勝美（S39 学化）
残念ながら都合がつきません。楽しい研修会になりますようにご祈念申し上げます。

・小川　一實（S41 学畜）
仕事が継続中でやっておりますので参加できません。

・松居　靖雄（S43 院化修）
　妻も参加します。

・磯谷　ゆり子（S48 学栄）
いつもお世話になりありがとうございます。楽しみにしております。

・大川　晶子（S52 学化）
研修会、初めて参加させていただきます。よろしくお願いいたします。

・松居　浩一（H10 学工）
　妻と娘も参加します。

（逗子地区）

・関　恵梨子（S50 学栄）
　地域の運動会、老人会のふれあい祭り、せせらぎホームのお祭り、市民祭りと続いており、ボランティアで頑張っています。

・鈴木　由美（H 1 学造）
　お世話になっております。さきに予定が入っておりますので、欠席いたします。

（三浦地区）

・池田　尚弘（S40 学農）
　幸いボラ旬間の off 日。参加楽しみにしています。

・小泉　幸太（H29 農学）
　当日は残念ながら学校行事と重なり欠席させていただきます。また機会があれば参加させていただければと思います。今後ともよろしくお願い致します。

（葉山地区）

・水留　亨（S44 学造）
　大船フラワーセンターの頭に県立から代って日比谷花壇という名称がついた事は全く知りませんでした。どんな風にモヨウガエされたのか興味があります！！

＜新会員の加入勧誘のお願い＞

日ごろより会の運営に対し、ご支援・ご協力をいただき有難うございます。

校友会活動の活性化を図るため会員の加入促進に取り組んでおりますが新規加入者があまりありません。将来的に湘南稲桜会を維持発展してゆくには新規会員の加入が急務であります。このためには皆様方の力が必要です、お知り合いの方に一人でも結構ですので声をかけて加入をすすめて下さい。

校友の絆と伝統ある湘南稲桜会の無限の発展のため是非皆さま方にお願いします。入会案内のチラシが事務局にありますので必要な方はお知らせ下さい。　（事務局）

＜会費納入のお願い＞

毎度のお願いになりますが、年会費 3,000 円の会費の納入をお願いいたします。年 2 回の会報「湘南稲桜会だより」の刊行、研修会の開催、総会での講演会、箱根駅伝応援等を皆様方からの会費や寄付によって行っておりますが厳しい状況になりつつあります。今後も活発な活動ができますよう引続きお願いいたします。　（事務局）

＜編集後記＞

湘南稲桜会だより 41 号をお届けします。
会員相互の情報交換の場としてお目通し下さい。
“我が土俵人生に一片の悔いなし”日本出身横綱として絶大な人気を誇り、相撲ファンの期待を一身に背負った稀勢の里が初場所 4 日目、1 月 16 日に引退した。新横綱 2017 年春場所に劇的な逆転優勝を果たしたが、この時に痛めた左腕のケガが戻らず 17 年の土俵人生に幕を閉じた。思い起こせば大関、横綱になるのも、もう少しのところで取りこぼしを喫し時間がかかった。苦労してもがく不器用な姿にファンも自分と同様と感じ心を打たれたのだと思う。2010 年九州、白鵬の連勝を 63 で止め、モンゴル勢には絶対逃げず立ち向かった。横綱在位 12 場所、36 勝 36 敗 97 休であった。筆者は 9 月 29 日稀勢の里・荒磯襲名披露大相撲を観戦する予定でその日を楽しみにしている。

(M. K)

＜第 23 回定期総会のお知らせ＞

第 23 回定期総会を下記のとおり開催いたします。

会員の皆様のご出席をいただきたくご案内申し上げます。

記

１．日　時　　2019 年 5 月 19 日（日）
午後 2 時～6 時

２．会　場　　ホテルハーバー横須賀
横須賀市汐入町 2-7
電話 046-822-0001

３．議　事

（１）平成 30 年度事業報告ならびに収支会計報告について

（２）平成 31（2019）年度事業計画案ならびに収支予算案について

（３）その他

４．記念講演　演題　「松みどり純米吟醸 S.tokyo 」と酒づくり
中沢酒造株式会社　社長　鍵和田　茂氏

５．懇親会　　参加費　7,000 円

準備の都合がありますので、お手数ですが出欠のご都合を同封のハガキにて 5 月 9 日までにお知らせください。
（詳細は別途ご案内いたします。）